

無形文化財の保存・活用に関する調査研究 (①無01-14-4/5)

目 的

我が国の無形文化財、並びに文化財保存技術の伝承実態を把握し、その保護に資するため、伝承の基礎となる技法・技術の実態や変遷の調査研究、及び資料の収集を行い、現状記録の必要な対象を精査して記録作成を行う。

成 果

1. 特殊再生装置を要する音声資料の内、フィルモン音帯について継続調査を実施し『無形文化遺産研究報告』第9号に掲載した。
2. 室町時代の巷間芸人放下の歌謡のうち、現在まで能・狂言で伝承されている「海道下り」と「放下僧」の小歌について考察し、第9回無形文化遺産部公開学術講座などで公表した。世阿弥の作曲技法について考察し、論文、著書などにまとめた。幸流小鼓の名家山崎家伝書について考察し、法政大学での講座で発表した。
3. 染織技術のうち、熊谷染（埼玉県）の事例を中心に、原材料や道具の入手・供給の状況を調査した。調査時に作成した映像資料は文化学園服飾博物館「時代と生きる」展（2014（平成26）年12月～2015（平成27）年2月）で公開し、展覧会の会期にあわせて研究会を開催した。染織技術の解明に向けて染織品調査と染織技法書の抽出整理を行い、成果を『無形文化遺産研究報告』第9号に掲載した。
4. 第9回公開学術講座を「流行歌としての道行き—『海道下り』を中心とした能・狂言歌謡の源流と広がり」のタイトルで10月18日に東京国立博物館平成館大講堂で行った。
5. 連続口演の機会が激減している講談について、一龍斎貞水師と神田松鯉師による実演記録16席を作成した。また、昨年度に引き続き、ほとんど上演されなくなっている落語の正本芝居噺（道具入り）について、林家正雀師による実演記録2席を作成した。観世流謡曲について、流儀の重鎮関根祥六氏の謡を録音した。

論文

- ・高桑いづみ「返シを謡うということ— [上げ歌] 形成の一過程とその応用—」『能と狂言』12号 pp.114-127 14.8
- ・高桑いづみ「《放下僧》と《海道下り》放下の歌」『花もよ』15 pp.10-11 14.9
- ・菊池理予「染色技法書に見られる豆汁の役割—寛文6年刊『紺屋茶染口伝書』を中心として—」『無形文化遺産研究報告』第9号 東京文化財研究所 pp.1-23 15.3

報告

- ・飯島満「フィルモン一覽」『無形文化遺産研究報告』第9号 pp.175-191 15.3

発表

- ・高桑いづみ「放下の歌と能・狂言」第9回無形文化遺産部公開学術講座 東京国立博物館平成館大講堂 14.10.18
- ・高桑いづみ「山崎家旧蔵小鼓伝書の概要」『よみがえる鼓胴—山崎家伝来「錠図帯梨」の音色を聴く』法政大学市ヶ谷キャンパス 15.2.27
- ・菊池理予「染織技術の伝承における道具の役割—熊谷染を事例として—」東京文化財研究所平成26年度第2回総合研究会 東京文化財研究所地下1階セミナー室 14.11.4
- ・菊池理予「日本伝統染織技術の継承と発展」日本民俗服飾特別講義 文化学園大学 15.1.26
- ・菊池理予 無形文化遺産（伝統技術）の伝承に関する研究会「染織技術をささえる人と道具」趣旨説明

とパネルディスカッションコーディネーター 文化学園大学 15.2.3

刊行物

・高桑いづみ『能・狂言－謡の変遷－』 288p 檜書店 15.2

研究組織

○飯島満、高桑いづみ、菊池理予、佐野真規（以上、無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、
星野厚子（客員研究員）